

彫刻の森ステーション

早稲田大学

池田厚彦

大阪市立大学

鶴谷一貴

筑波大学

富山かなえ

広島大学

百々路三視郎

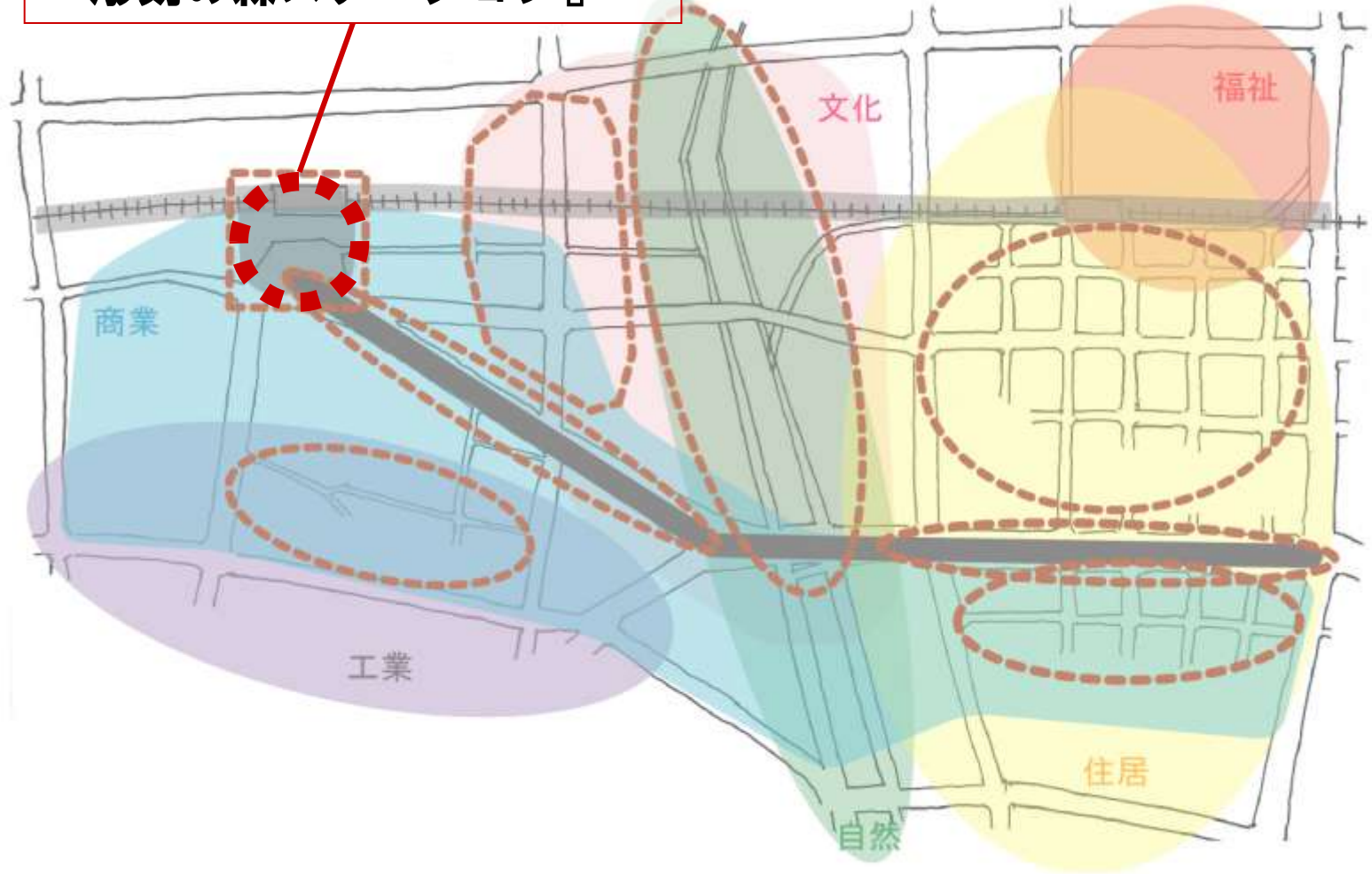
九州大学

山口寛子

《7つの提案プロジェクト》

宇部新川駅周辺整備計画

『彫刻の森ステーション』



■現状



一日平均利用者数はJR2500人、市バス6000人である。
駅はあまり利用されず、まちとのつながりがない印象を受ける。

■マスタープランによる交通の変化

- ①電気バス導入(宇部興産行き、ときわ公園行き)
- ②レンタサイクルの導入
- ③高速バスの停留所を駅に変更する(宇部中央→宇部新川駅)

従来から利用が多い高校生や高齢者に加えて、大学生、宇部興産従業員、観光客などより多くの様々な人に駅が利用されることが予想される。

■宇部新川駅 コンセプト

まちの中には住民と来街者がいる。

■住民

親しみを感じることが出来る駅

(住民が立ち寄りやすく
憩いを感じる空間)

■来街者

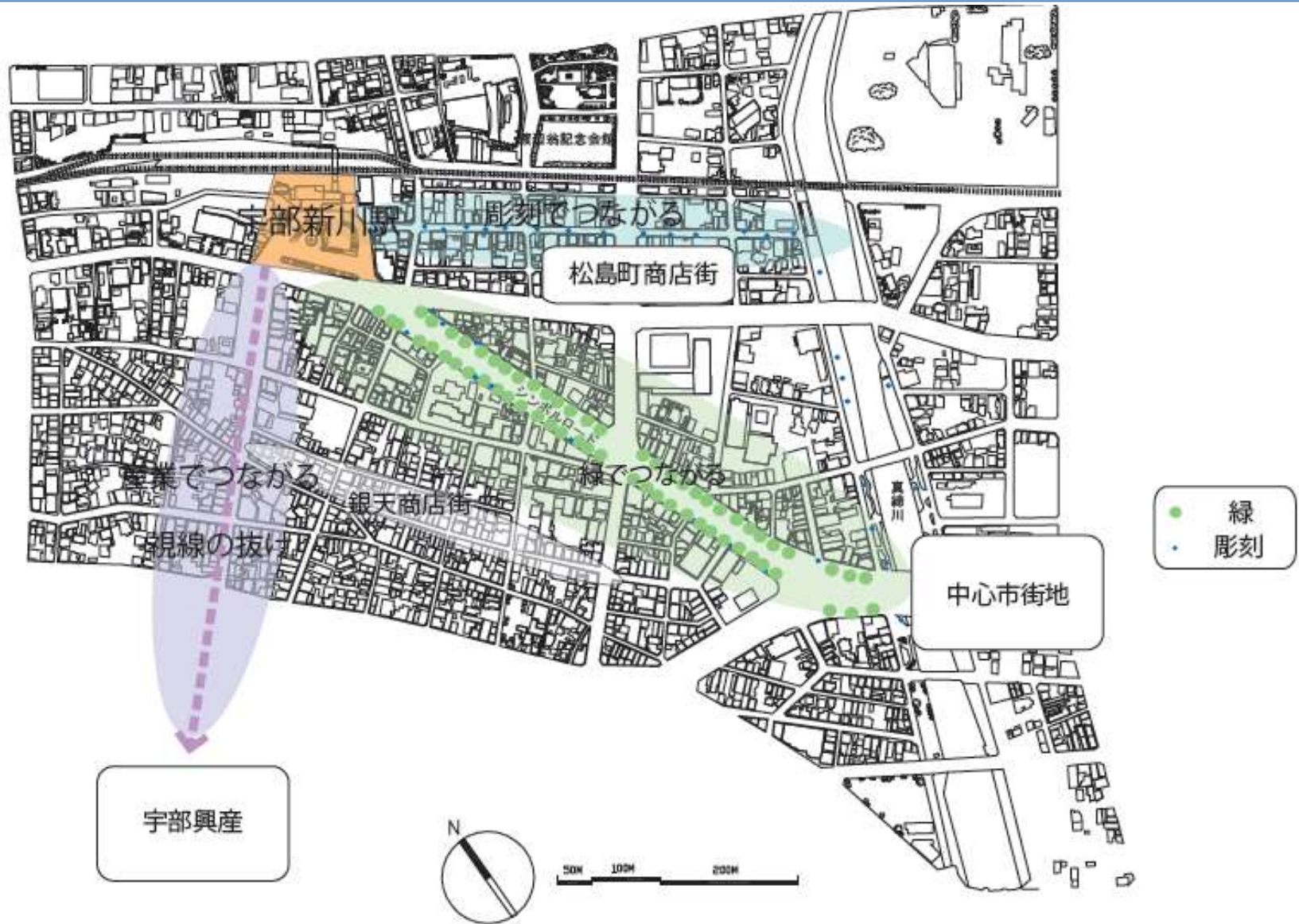
宇部のまちを感じることが出来る駅

(緑と花と彫刻のまち・
宇部を特徴づける空間)

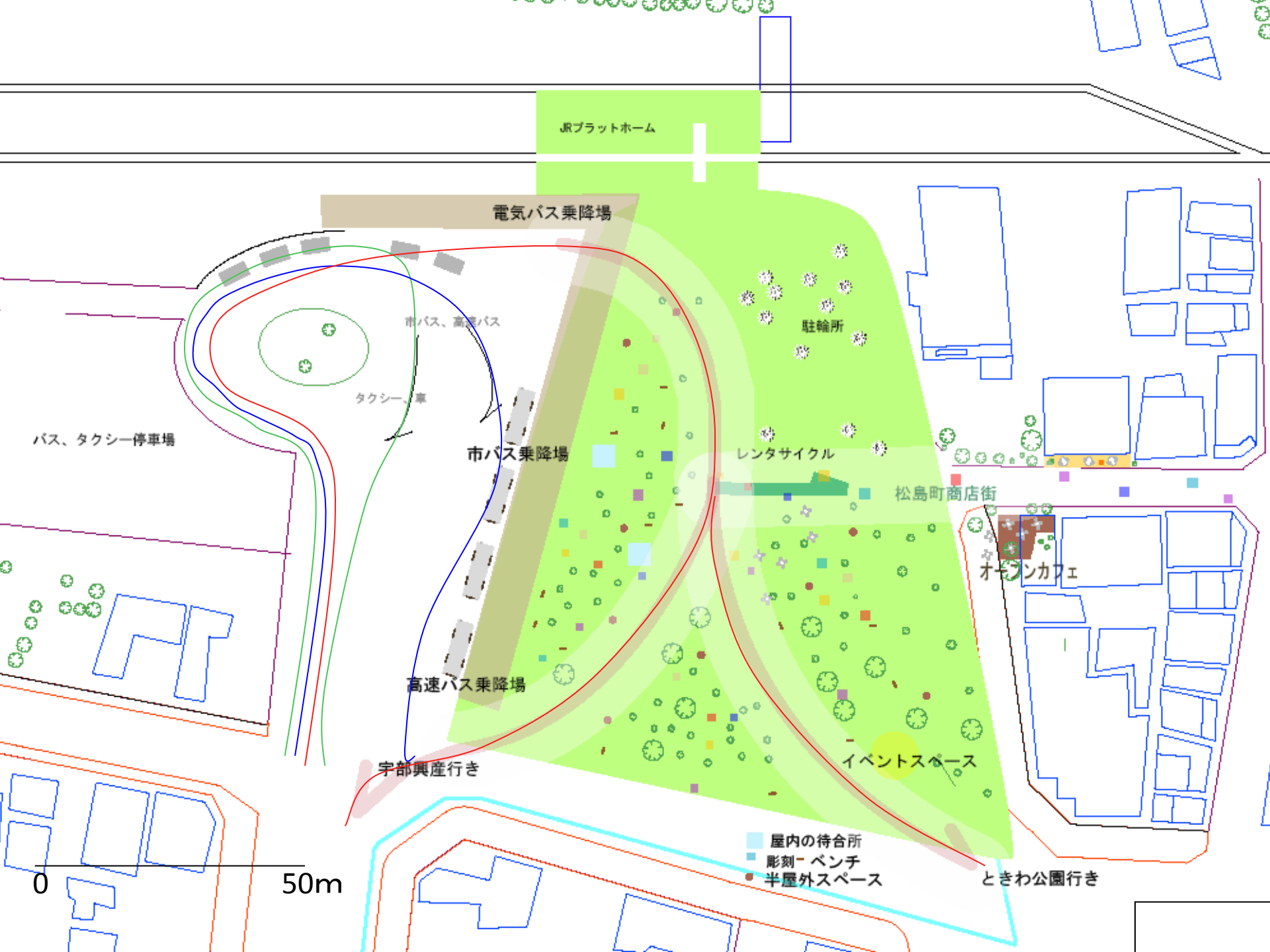
彫刻や緑を用いつつ、来街者だけでなく市民も親しめる駅をつくる

彫刻の森ステーション・宇部新川

■まちとつながる宇部新川駅



宇部の特徴である彫刻・緑・産業により駅とまちをつなぐ



■彫刻の森ステーション 鳥瞰



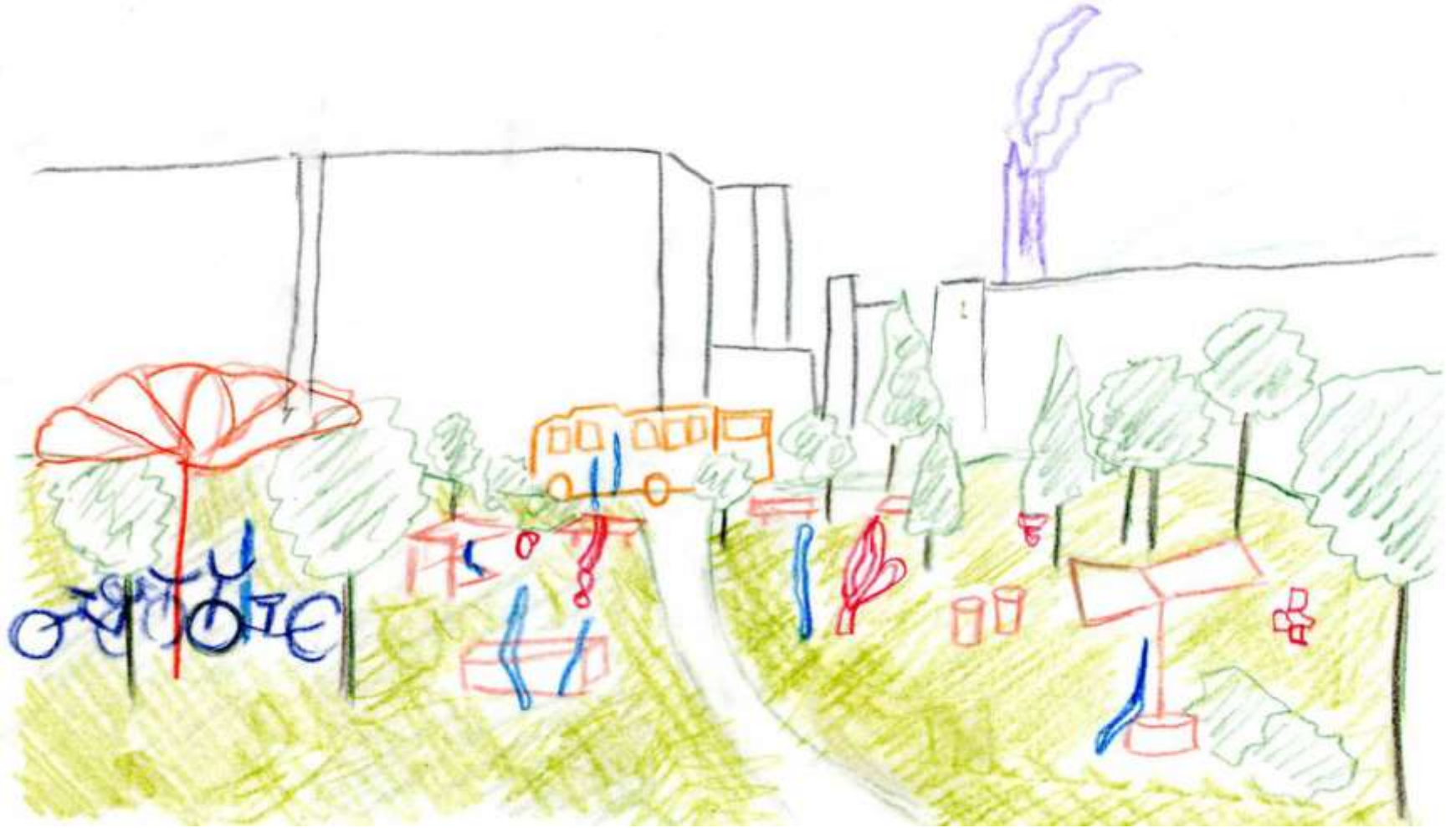
駅前に広大な緑地が見える

■彫刻の森ステーション 松島町商店街



道に対して開かれた店舗や彫刻が並び、活気溢れる商店街

■彫刻の森ステーション 広場



駅から出ると緑や彫刻、宇部興産の煙突が見える

御静聴ありがとうございました。